

5. 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

5. 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

(1) 確認種数(資料II.5.1)

今回とりまとめを行った25河川で確認された両生類は2目6科18種、爬虫類は2目7科15種、哺乳類は8目18科51種です。また、それぞれの確認種数が多かった河川は、両生類が北陸地方手取川の12種、爬虫類が中部地方揖斐川の11種、哺乳類が北海道地方天塩川の23種でした。

(2) 特定種の確認種数(資料II.5.2)

今回とりまとめを行った25河川で確認された特定種は、両生類5種、爬虫類1種、哺乳類6種です。また、特定種の確認河川数が多かった河川は、両生類では北陸地方手取川の4種、哺乳類では北海道地方天塩川の3種などでした。

(注) 特定種の定義

本資料においては、次のものを特定種としています。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・環境庁編(1997-1999)「レッドリスト」掲載種
- ・環境庁編(1991)「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種
- ・環境庁編(1976)「緑の国勢調査(第1回自然環境保全調査)」における「すぐれた自然の調査」対象種
- ・環境庁編(1982)「緑の国勢調査(第2回自然環境保全基礎調査)」における「日本の重要な両生類・爬虫類」対象種

(3) 外来種の確認種数と割合(資料II.5.3)

今回とりまとめを行った25河川で確認された外来種は、両生類1種、爬虫類1種、哺乳類7種です。また、現地確認種数に占める外来種の割合が高かった河川は、両生類では関東地方相模川、北陸地方関川の約33%、爬虫類では、九州地方大淀川の約33%、哺乳類では中部地方長良川の約25%などでした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種は、おおそ明治以降に侵入したと考えられる国外由来の動植物を扱い、侵入後に日本で定着した帰化種であるか否かは、判断が困難な種があるため考慮していません。また、外来種の選定は、巻末に添付した文献および学識経験者の意見により行っています。

(4) ミシシippアカミミガメ、ヌートリアの確認状況(資料II.5.4)

確認状況の概要は、9～10ページに示すとおりです。

(5) イシガメ・クサガメの確認状況(資料II.5.4)

確認状況の概要は、13～14ページに示すとおりです。